

北九州市のフィリピン共和国ダバオ市での取組みについて

1 ダバオ市の概況

ダバオ市は、フィリピン南部ミンダナオ島にあるフィリピン第3の都市であり、同国のロドリゴ・ドゥテルテ前大統領や、サラ・ドゥテルテ現副大統領が長く市長を務めていた。人口は推定で約180万人。多様な人種が混在する。

ダバオ市の行政面積は 2,443.61 km²もあり、市としては世界最大級の広さである(参考:北九州市 486.8 km²)。

国内外に販売するバナナ、パイナップル、コーヒー、ココナツを栽培する巨大プランテーションが農地の大半を占めている。

ダバオ市が発展したきっかけは、20世紀初頭の日本人によるアバカ(マニラ麻)栽培の農園経営であり、当時は2万人の日本人が住む東南アジア最大の日本人街もあった。現在でも多くの日系人が住み、定年を迎えた日本人の移住先としても注目される親日的な地域である。



2 ダバオ市での環境国際プロジェクトの概要

(1)無償資金協力(ODA)

平成30年2月13日に、ダバオ市での廃棄物発電事業に関する無償資金協力の閣議決定がなされ、同3月20日に本案件に係るフィリピン国政府との交換公文が署名された(無償資金協力金額:50億1,300万円)。本案件の入札は、令和6年以降の予定であり、本市の連携先である市内企業の日鉄エンジニアリング(株)が実施主体となれるよう、支援している。

(2)廃棄物発電施設(WtE)導入について

平成26年12月に独立行政法人国際協力機構(JICA)の民間技術普及促進事業に、市内企業の日鉄エンジニアリング(株)とともに採択された。フィリピンで初となる廃棄物焼却発電施設の導入を目指して、ダバオ市において廃棄物処理状況や関係法制度等の調査を実施した。本市と日鉄エンジニアリング(株)とは、平成27年3月に包括連携協定を締結している。

(3)JICA 草の根技術協力事業について

平成28年7月にJICAの草の根技術協力事業(地域活性化特別枠)の採択を受け、平成29年4月からの3年間で、家庭でのごみの分別指導や生ごみのコンポスト化などを通して、ダバオ市が自発的にごみの減量化ができるよう人材の育成を行った。(平成30年、令和元年に来北研修実施)

令和4年4月からは、草の根第2期事業として、廃棄物の分別・収集・運搬技術などの向上や、海洋へのごみの流出等の問題解決を目指したプロジェクトを実施している。

3 環境姉妹都市の取組み

(1)環境姉妹都市の締結

平成 28 年 11 月、「戦略的環境パートナーシップ協定」を締結、平成 29 年 11 月には本市で、両市の間で「環境姉妹都市提携に関する覚書」を締結した。

(2)ダバオ市との環境姉妹都市締結 5 周年記念事業

環境姉妹都市締結 5 周年の節目にさらなる連携の強化を目的として、近年世界的な環境課題として注目される海洋プラスチック問題をテーマに、両市民がそれぞれ海岸清掃を同時に行い、後日市民レベルで日ごろの環境活動について意見交換を行うワークショップを開催することにより、市民同士の交流と環境活動のさらなる高揚を図った。

☆実施内容

①第一部:海岸清掃

令和 4 年 5 月 29 日(日) 若松区岩屋海岸

北九州市立大学より 50 名が参加



②第二部:環境オンラインワークショップ

令和 4 年 6 月 17 日(金) オンライン Zoom を使用

北九州市立大学学生団体(421Lab.)グリーンバード北九州チームが参加

